

版画専門のギャラリー

アートゾーン神楽岡



京都大学からほど近く、吉田山を臨む神楽岡通り沿いに、版画を扱うギャラリー「アートゾーン神楽岡」がある。

03年9月にオープン。白を基調とした明るい雰囲気のある室内に入ると、宙に吊られた巨大なガラスケース、壁一面に飾られた作品の数々が目をひく。

「気軽に見に来てほしいです。作品のことならなんでも聞いてください」と気さくに語るオーナーが、ギャラリーについて話してくださった。(ココアリキュール)



<住所> 京都市左京区吉田神楽岡町4
<PHONE + FAX> 075-754-0155
<URL> <http://www.artzone-kagurao.com>
<営業時間> 11:30~20:00 水・木定休

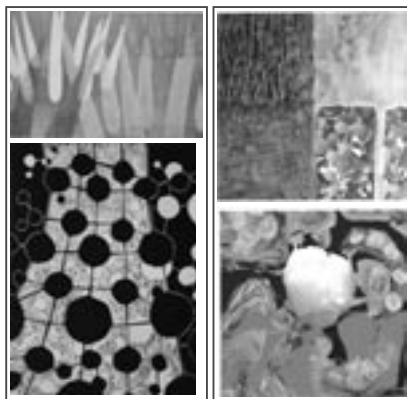
版画に興味を持ったきっかけ

70年代の当初、私が版画を集め始めた頃はまだ、版画というのは絵ではなくただのプリントではないか、という認識しかなかったんです。絵といえば日本画、洋画だとされていました。ある日友達に誘われて、木版画の個展を見に行っただけですが、それが素晴らしかったんですよ。江戸時代の浮世絵版画のような日本の伝統プラスα現代美術としての表現力のあるものでした。その後いろいろ調べたら日本の版画家が海外でずいぶん活躍していることがわかり、日本の伝統は明治以降洋画が導入されて一度廃れたけど、やはり深い部分でずっと根ざっていて、今の版画作品にも活かされているんだと思いはじめた。版画というのはおもしろいな、と思って収集し始めましたね。

ギャラリーを開いた理由

30数年間コレクションしてきて、非常に多くの作品が集まったんです。これらをただしまっておくのはもったいない、多くの人に見てほしいと思って、ギャラリーを開くことを決意しました。

様々なテーマ、作風の作家さんの展示会を、3週間程度のサイクルで行っています。江戸時代の浮世絵版画などいろいろな作品がありますが、私は現在活躍している、あるいはこれから活躍していくであろう作家さんたちに焦点を当てて紹介していきたいです。



青木 野枝

小枝 繁昭

版画のおもしろさ

版画というのは、木版画、銅版画、シルクスクリーンなどいろいろな種類があります。技法によって絵の雰囲気が変わるんですね。また、同じ技法でも作家さん一人一人の力量、用いる素材によって様々な味わいのある作品ができる、それが洋画や日本画にはない版画の持ち味だと思っています。

絵と音楽のコラボレーション

絵を見ているときに音楽を感じたり、音楽を聴いているときに絵をイメージすることがあると思うんです。そこで、絵と音楽の両方がマッチングする空間を用意したいと考えました。

展示作品に合う音楽を聴いてもらおうという趣旨で、月に一回演奏家の方にお願ひしてジャズやクラシックのコンサートなどを行っています。

読者へのメッセージ

京大のすぐ近くにあるので、気軽に立ち寄ってみてください。版画を単なるプリントではなくて、美術における一つの自己表現の手段として見ていただきたいですね。製作の工程を知ると、作家さんがいろいろ大変な作業、様々な工夫をしていることがわかっておもしろいと思います。まずは作品を見て、こんなすごい作家さんがいるんだなということを感じてもらえるといいですね。



5月の展示・イベント

キム テヒョク
5/7~5/25 金兌赫 版画展

前衛的な作風を持つ、韓国の若手木版画家。紙のおもしろさについて研究しており、作品に和紙や韓国の紙を使うなどの工夫を凝らしている。

5月22日には、ヴァイオリンと琴の共演によるコンサートが予定されている。

はみだし
すてーじ

板チョコが好きだ (特にghana)
⇒チョコはいいですね、疲れたときに食べると元気がでます。

(法・1 ポン・デ・ライオン)
("チョコレート効果"の箱がタバコの箱に見えてしまう編)